



N-BLOOD

NISMO Motorsports
Communication Magazine



N-BLOOD

NISMO Motorsports Communication Magazine
2021 / October
No. 92

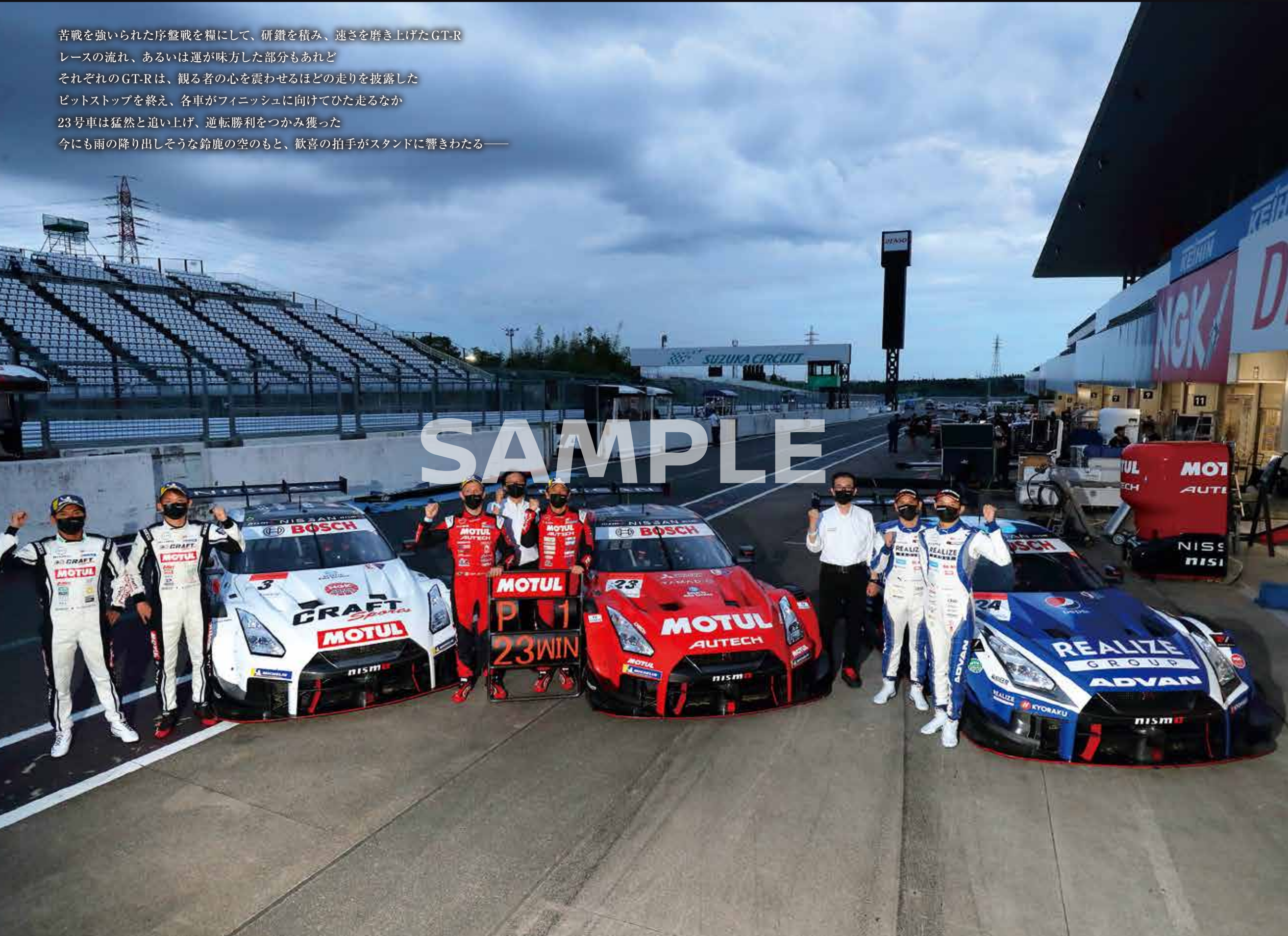
nismo

Produced by NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

NISMO Motorsports Communication Magazine N-BLOOD 2021 / OCTOBER No.92 NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

7年ぶりに迎えた最高の週末

苦戦を強いられた序盤戦を糧にして、研鑽を積み、速さを磨き上げたGT-R
レースの流れ、あるいは運が味方した部分もあれど
それぞれのGT-Rは、観る者の心を震わせるほどの走りを披露した
ピットストップを終え、各車がフィニッシュに向けてひた走るなか
23号車は猛然と追い上げ、逆転勝利をつかみ獲った
今にも雨の降り出しそうな鈴鹿の空のもと、歓喜の拍手がスタンドに響きわたる――



- 4 **2021 SUPER GT SERIES GT500 CLASS**
鈴鹿でつかんだ上昇気流
23号車と12号車がそれぞれ今季初勝利
- 6 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 1**
松田次生
前人未到のGT500クラス23勝を達成
- 8 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 2**
近藤真彦
チームにとって大きな表彰台
- 10 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 3**
高星明誠 佐々木大樹
次に目指すは“優勝”の二文字
- 12 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 4**
田中利和
着実な戦いを続ける3号車
シーズン終盤戦に向けて
- 14 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 5**
平峰一貴 / 松下信治
- 16 **2021 SUPER GT SERIES GT300 CLASS**
王座防衛に視界良好
サクセスウェイト搭載も強さを発揮する56号車
- 18 **SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 6**
星野一樹
挑戦は終わらない
レース人として歩む、新たな道
- 20 **2021 SUPER TAIKYU SERIES**
トップチェッカーも再車検でまさかの失格
- 22 **FIA FORMULA E WORLD CHAMPIONSHIP**
ローランドが終盤戦で2度の表彰台を獲得
- 24 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 26 **NEW MODEL**
ノート オーラNISMO
「駿足の電動シティレーサー」デビュー！
- 32 **NISMO PRODUCTS**
NISMO パーツ最新情報
- 36 **Club NISMO EVENT REPORT**
松田次生選手GT500 23勝オンライン祝勝会
- 37 **Club NISMO**
オンライン販売商品活用術
- 38 **NISMO FESTIVAL**
NISMO Festivalの開催見送りについて
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント

2021 SUPER GT SERIES GT500 CLASS



鈴鹿でつかんだ上昇気流

23号車と12号車がそれぞれ今季初勝利

第3戦鈴鹿の延期によるインターバルを挟んで
第4戦ツインリンクもてぎから始まったシーズン中盤戦は
序盤に苦しい戦いを強いられてきた日産勢にとって
GT-Rの強さをあらためて証明する、至高とも言える結果となった

第3戦鈴鹿では、ファンが長
年待ち望んでいたGT-R勢に
よる表彰台独占を達成。さ
らに23号車の鈴鹿3連勝、
松田次生の23勝目と、ドラ
マの多いレースとなった。



相性のいい鈴鹿で証明した GT-Rの“強さ”

2021年のSUPER GT序盤戦は、NISSAN GT-R NISMO GT500勢にとって苦しい展開となっていた。4月の開幕戦岡山は#23 MOTUL AUTECH GT-Rと#12 カルソニック IMPUL GT-Rがアクシデントに巻き込まれ、#3 CRAFTSPORTS MOTUL GT-RがGT-R勢最上位の9位。長丁場の第2戦富士では、#23 GT-Rがスタート直後にトラブルに見舞われ、ここでも#3 GT-Rの5位が最上位という展開だった。

GT-Rにとって相性がいいはずの第3戦鈴鹿は三重県へのまん延防止措置のため延期となり、7月の第4戦もてぎでは、#3 GT-Rが3戦連続の入賞を果たすものの6位と、なかなか苦境を脱することができずにいた。

しかし、新型コロナウイルス禍によって制限が多い中で熱い声援を送り続けてくれるファンのためにも、このままでは終われない。8月21～

22日に延期された第3戦鈴鹿に向けて、各チームは着々と準備を進め、必勝を期して臨んだ。

その効果は、8月21日の予選から発揮された。4番手につけた#23 GT-Rを筆頭に、GT-Rは4台全車が予選Q1を突破する快走を見せたのだ。翌日の決勝レースでは、#23 GT-Rが上位争いを制してトップに立つと、ピットストップタイミングで4番手まで順位を落としながらも、#16 NSX、#12 GT-R、#3 GT-Rをオーバーテイクし、今シーズン初優勝。2020年から鈴鹿サーキットで3連勝という偉業を達成し、さらに#23 GT-Rの松田次生はGT500クラス通算23勝目を飾り、SUPER GT最多勝記録を更新。『23号車で23勝』という目標を果たした。

さらに、2位には#3 GT-Rが入り、3位には後半スティントで速さをみせた#24 リアライズコーポレーション ADVAN GT-Rが入った。これで2014年以来7年ぶりに3台のGT-Rが表彰台を独占するという結果に。今季の苦しい序盤戦を払拭する結果を残し、ファンを沸かせることになった。

前戦の悔しさ晴らす12号車の快勝に グランドスタンドから拍手喝采

そんな鈴鹿でのレースで、中盤戦まで速さをみ
せながらも6位という結果だったのが#12 GT-R

だ。しかしその悔しさを、9月11～12日の第5戦スポーツランドSUGOで晴らした。

この第5戦から、#23 GT-R以外の3台はシーズン2基目のフレッシュなエンジンを搭載して参戦した。#12 GT-Rはサクセスウェイトの軽さを活かして予選3番手と好位置につけると、序盤からSUGOを得意とする#3 GT-Rと2番手争いを展開。

さらにピットストップ後も平峰が好走を見せる。車両火災によるセーフティカー導入や、トップを走行していた#8 NSXがペナルティで後退する波乱含みの展開となるも、#12 GT-Rは力走を披露。首位に浮上して今季初優勝を飾ったのだ。

加えて、公式予選では苦戦を強いられていた#24 GT-Rもレースラップの速さを活かして6位入

賞。#23 GT-Rは予選後にエンジントラブルの兆候が見つかり、3基目のエンジンを投入したためにペナルティストップを科されていたが、粘り強い走りですべて7位まで浮上し、入賞を果たした。

シーズン序盤の苦境を跳ね返し、GT-Rは中盤戦2連勝を果たす活躍をみせた。日産/ニスモは終盤3戦へ向け、さらに競争力を高めていく。



平峰一貴と松下信治にとってはGT500クラスでのうれしい初勝利。第3戦鈴鹿で味わった悔しさをバネに、松下がスタートから好走。後を受けた平峰も力強い走りです勝利をつかんだ。



TEAM IMPULとして実に5年ぶりとなる優勝。星野一義監督、ふたりのドライバーとチームが一丸となって、長いトンネルから脱した。

Round 4 MOTEGI GT 300km RACE

3号車が日産勢最上位の6位フィニッシュ

GT500 Class (63Laps)				
7月18日 ツインリンクもてぎ 天候：晴 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'41.320 #19 WedsSport ADVAN GR Supra 宮田莉朋				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	1	STANLEY NSX-GT 山本尚貴 / 牧野任祐	1:54'03.865	
2	19	WedsSport ADVAN GR Supra 国本雄資 / 宮田莉朋	3.221	
3	36	au TOM'S GR Supra 関口雄飛 / 坪井翔	11.880	
6	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R 平手晃平 / 千代勝正	54.164	
9	23	MOTUL AUTECH GT-R 松田次生 / ロニー・クインタレリ	57.773	
11	12	カルソニック IMPUL GT-R 平峰一貴 / 松下信治	1'06.557	
12	24	リアライズコーポレーション ADVAN GT-R 高星明誠 / 佐々木大樹	1'16.082	

Round 3 SUZUKA GT 300km RACE

GT-R勢、表彰台独占の快挙

GT500 Class (52Laps)				
8月22日 鈴鹿サーキット 天候：曇 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'49.082 #64 Modulo NSX-GT 伊沢拓也				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	23	MOTUL AUTECH GT-R 松田次生 / ロニー・クインタレリ	1:50'23.702	
2	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R 平手晃平 / 千代勝正	11.362	
3	24	リアライズコーポレーション ADVAN GT-R 高星明誠 / 佐々木大樹	20.127	
6	12	カルソニック IMPUL GT-R 平峰一貴 / 松下信治	45.076	

Round 5 SUGO GT 300km RACE

力走見せた12号車が5年ぶり勝利

GT500 Class (83Laps)				
9月12日 スポーツランドSUGO 天候：晴 コンディション：ドライ ファステストラップ：1'13.676 #8 ARTA NSX-GT 野尻智紀				
Pos	No	Machine/Drivers	Time / Behind	
1	12	カルソニック IMPUL GT-R 平峰一貴 / 松下信治	1:56'41.101	
2	1	STANLEY NSX-GT 山本尚貴 / 牧野任祐	8.511	
3	17	Astemo NSX-GT 塚越広大 / ベルトラン・バゲット	11.145	
6	24	リアライズコーポレーション ADVAN GT-R 高星明誠 / 佐々木大樹	24.626	
7	23	MOTUL AUTECH GT-R 松田次生 / ロニー・クインタレリ	28.532	
3	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R 平手晃平 / 千代勝正	46Laps	

SUPER GT SPECIAL INTERVIEW 1

松田次生 Tsugio Matsuda

前人未到のGT500クラス23勝を達成 さらなる高みを目指す“通過点”

序盤戦から苦しい戦いを強いられていた2021年シーズン
相性のいい鈴鹿で流れを変える勝利をつかんだ松田次生に
どのような思いで第3戦鈴鹿を戦っていたのか、あらためて聞いた

SAMPLE

守りのレースをして 2位や3位で終わるのはイヤだった

N-BLOOD 編集部（以下 NB）：今回の第3戦鈴鹿は、三重県内にまん延防止措置も出ているなかでのレースになりました。そんな中でのレースに対し、思っていたことなどはありますか？
松田次生（以下松田）：やはり新型コロナウイルス感染症の陽性者数が増えていたなかでのレースだったので、非常に気を遣いましたね。常に手洗いをしたりマスクを厳重にしたりと、レース以外での緊張感もありました。大事なレースですし、僕たち関係者が鈴鹿でコロナ陽性者を出してはいけないという思いもありました。一方、鈴鹿サーキットさん、鈴鹿市を含めて、『レースをやっても良い』と認めてくれたことには感謝しています。僕たちもしっかりとした準備ができたことで、お

互いの信頼関係を土台にレースが実現できたことは大きかったのではないのでしょうか。
NB：そして今季初勝利。序盤戦の結果を含め思うところもあったと思いますが。
松田：今シーズンについては開幕戦、第2戦と苦しい状況だったので、色々な思いがありました。自分のキャリアを振り返っても、今まで開幕2戦連続でノーポイントというのはあまり記憶にありません。『今年は表彰台に乗れるのかな』とネガティブに思うてしまうこともありましたが、本来5月だった鈴鹿が8月に延期されたことで、僕たちが昨年勝利を飾ることができたタイミングに近くなった。ゲンが良いタイミングでレースができると、そこはプラスに捉えていました。
NB：ロニー・クインタレリ選手が担当したレース前半はどのように見ていましたか？
松田：正直なところ、前にいた2台のNSXが速く、

『抜けないな』という印象でした。また背後からは3号車、24号車も迫って来ていましたし『今回は楽には勝たせてもらえないな』という気持ちもありました。
NB：序盤にセーフティカーが入ったこともあり、難しい展開にもなりました。レース後、ピットインのタイミングについては失敗と言及していましたが、その理由を教えてください。
松田：僕としてはミニマムで入ってきてもいいようにしっかりと準備をしていました。ただセーフティカーが入ってしまった。その時にGT500とGT300がそれぞれ隊列を整えるわけですが、リスタートして、GT300車両のバックマーカーが前に出てくるあたりが、タイムロスを最も減らせる理想的なタイミングです。『入らなくていいのかな？』とは思っていましたが、まわりが先にピットに入り始めた。そのままステイアウトして、

GT300を抜いた後にペースを上げることができればいいかな、とは思いましたが、思ったほどタイムを上げることができなかったのです。

NB：その結果、4番手に順位を落としてしまいましたが、松田選手に交代した直後はどんな心境だったのでしょうか。

松田：『このままじゃ終われない』と思いましたし、『タイヤを使い切ってもいいから、あとは全力で抜いていこう！』という気持ちに切り替わりました。

NB：レース後には、『ゾーンに入っていた』という発言がありました。

松田：その時は、冷静かつ集中して走っていました。前走車を抜きに行く時は、まわりがスローモーションのように見えると言えいいでしょうか。『ここならいける』という冷静な自分もいて、かつ速く走れる状態でした。この“ゾーン”は、最近あまり感じたことがなかったですね。

NB：そういう状態に入る“スイッチ”のようなものがあるのでしょうか。

松田：きっかけは4番手に落ちて『このままじゃ悔しすぎる』という気持ちになったことだと思いますね。とにかくガムシャラにいて、ダメならあとで考えようと。タイヤを使い切らず、守りのレースで2位や3位で終わるのはイヤだった。

NB：カルソニック IMPUL GT-R をかわし、優勝争いは CRAFTSPORTS MOTUL GT-R との戦いになりました。正直、最も戦いつらい相手だと思いましたが、チャンスをつかめたポイントとは。

松田：12号車を抜いた時に、タイヤをかなり使った印象はあったのですが、こちらが速いところをプラスに捉えようとしていました。その後、ピットからは特に指示はなかったのですが、とにかく自分の中でも“ゾーン”に入っていたので、完全に集中し切っていた感じです。もちろんピットから燃料残量などを聞かれてそれには答えていましたが、『ペースを抑えろ』とは言われなかったし、自分としては手を抜かずにブッシュしていった感じですね。

NB：結果として今季の初優勝につながりました。とても喜んでいるシーンが印象的でした。

松田：3台も前に速いマシンがいて、4番手からトップに立てて、さらにその後もぶっちぎるレースができたので、自分のなかで隙のないレースができたことが大きいですね。ロニーも『スゴい！』と言ってくれました。あんなに褒めてくれることはめったにないですね（笑）。



レース後、マシンを降りた松田選手を大喜びで迎えたロニー選手。最良の結果を持ち帰った長年の相棒を祝福した。

この勝利を後半戦への弾みに 続くターゲットは25勝

NB：そしてこの勝利で、ついに『23号車で23勝』という目標を達成しました。

松田：最大のチャンスが鈴鹿だと考えていました。だからこそ抜いていかなければと思っていましたし、23勝が自分にとって記念のレースになるというのも分かっていたので、全力を出し切ってチェッカーを受けた瞬間、『ああ、達成できた』という気持ちになりました。開幕前から『23勝』を目標のひとつにしていたので、それが達成できた喜びが爆発したのだと思います。普段はヘルメット越しにカメラに向かってあれほど喜ぶこともありませんね（笑）。

NB：N-BLOODでも『今年23勝を決めたい』と公言されていましたが、これは周囲にも宣言されていたのでしょうか？

松田：今年の目標として『23号車で23勝』というのは色々ところで言っていました。ある意味自分でプレッシャーをかけていたような感じですね。勝った後はLINEの件数がとんでもないことになっていて、すべて返信するのに2日くらいかかってしまいました。

NB：今回23勝を飾ったことで、自分にご褒美などは考えていますか？

松田：う〜ん。自分で出すとしたら、何かクルマのパーツを買いたいとか、そういう感じばかりになってしまいうのですが（笑）、普通に美味しいものを食べにいくくらいですね。でも今はなかなか

レストランにも行きづらいですし……。23勝記念のグッズやポスターが出てくれたらうれしいですね。

NB：クルマの話が出ましたが、たくさんのマイカーのなかで、“仕事のクルマ”と“趣味のクルマ”など、違いはあるのでしょうか？

松田：自分で欲しいクルマと、ドライビングの幅を広げるクルマがありますね。レーシングカートはフィジカルや目のトレーニングになったりするのですが、昨年、緊急事態宣言でレーシングカーがドライブできなかった時期には、代わりにV35スカイラインを買いました。サーキット専用にして、セッティングやクルマの動かし方を学ぶのに有効です。V35は重いクルマの向きの変更方やコーナーへのアプローチ、セッティングの違いによるドライビングの合わせ方など、そういう“答え合わせ”をするのに役に立っていますね。

NB：最後に Club NISMO の会員の皆さんへひと言をお願いします！

松田：正直、日産勢はしばらく苦しい状況が続いていて、ファンの皆さんに辛いレースをみせてしまっていました。その中で今回、23号車が優勝し、表彰台を独占することができました。7年ぶりのことで、とても良かったと思いますし、先につながると思っています。

これからのシーズンも簡単ではないとは思いますが、この勝利は後半戦への弾みになります。23勝という節目をひとつクリアできましたし、今度は25勝というターゲットを目標にしたいと思っています。

3台も前に速いマシンがいるなかでトップに立てて
さらにその後もぶっちぎることができた
今後につながるレースになったと思います

